

# 川内川子ども環境ネットワーク2009 第7回全体発表会

## 豊かな体験を通して学ぶ総合的な学習の時間のカリキュラム 「水と緑の海田東小ものがたり」活動事例紹介について

発表者：広島県安芸郡海田町立海田東小学校 校長 金沢 緑 先生

平成15年PISA調査から端を発した**児童の「理科離れ」**が心配されています。その背景には、教師の理科離れがあることが各種調査で明らかにされました。平成20年3月に告示された学習指導要領では「科学的な思考力・表現力の育成を図る観点から、学年や発達の段階、指導内容に応じて、例えば、観察・実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動、探究的な学習活動を充実する方向で改善する。」と記されています。

**海田東小では**、これを学校の課題ととられ、校長・教頭を中心とする各担当者でつくるプロジェクトチームを立ち上げ、教師自らがこの課題に対し仮説を立て校内研究をおこなっているところです。地域の自然環境の中での豊かな体験を通して学ぶ総合的な学習の時間のカリキュラム「水と緑の海田東小ものがたり」を開発し、実施することにより、**体験から規則性を学び、科学的に整理すると論理ができあがるという理科という教科の特性を生かして**、言語を介在させ、思考力を育成し表現させる授業づくりをH19年度より学級を基盤に行っています。

H21年度は、「ESDで育む論理と思考～理科・生活・総合的な学習の授業づくりを通して～」をテーマに、

- ①「水と緑の海田東小ものがたり」に、理科・生活科・総合的な学習の時間の指導内容とかわらせず、エネルギー・環境教育の視点に立ち、実感を伴った体験を繰り返すことによって、問題解決能力や論理的思考力を育成できるか？
- ②理科・生活科・総合的な学習の時間において、エネルギー・環境教育と関連づけた指導を行い、言語技術を導入すれば、自らのことばで論理をつくれるか？を研究仮説として取り組んでいるところです。



また、この「水と緑の海田東小ものがたり」を学校文化として定着させることも目標としています。

海田東小学校資料より抜粋



金沢 緑(かなざわ みどり)先生 プロフィール

1949年広島県生まれ。広島大学学校教育学部卒業後、広島県内の公立小学校に赴任。10年ほど育児のために教職をはなれ、ボランティア・塾講師に従事。1986年教職員採用試験を再び受け、翌年広島県立安芸郡府中町立府中小学校に赴任。現在、安芸郡海田町立海田東小学校に校長として勤務。

中央教育審議会委員 広島県生活科学会会長 理科教育推進委員  
ソニー科学教育研究会(SSTA) 常任理事 RAC川に学ぶ体験活動協議会会員

著作：授業技術実践シリーズ9(国土社) 生活科 人とのかわわりを大切に指導

